

## 岐阜森林管理署のニホンジカ対策

～職員の意識向上と職員捕獲への取組～

中部森林管理局 岐阜森林管理署  
一般職員 小原 弘明  
一般職員 日吉 晶子

### 1. 課題を取り上げた背景

岐阜署ではセンサーカメラ及びライトセンサスによるニホンジカの生息状況の把握と職員による目撃情報の集約（ポータルを利用）を行い、そのデータを基に職員がくくり罠を設置し捕獲の効率化につなげています。また、こういった目撃情報等のデータは猟友会や関係市町村が国有林で行っている委託捕獲や有害駆除事業へ提供しています。

今回、平成28年度から取り組んだ新たなニホンジカ捕獲対策について取りまとめたので報告します。

### 2. 取組の経過

#### (1) 職員の意識の向上と協力体制の整備

- ・林野庁ポータルを活用したニホンジカの目撃情報の集約
- ・「鳥獣保護及び狩猟に関する講習会」開催…（写真1）

#### (2) ニホンジカの生息状況把握

- ・センサーカメラの設置
- ・ライトセンサスの実施…（写真2）

#### (3) 捕獲事業の実施

- ・猟友会による委託捕獲の実施
- ・くくり罠の貸し出し
- ・職員による捕獲の実施



（写真1）講習会の様子



（写真2）ライトセンサスによるニホンジカ生息状況把握の様子

### 3. 実行結果

#### (1) 職員の意識の変化

獣害対策に直接関係無い職員にも協力してもらえる状況が出来た。

#### (2) 捕獲頭数の向上…（図1）

職員捕獲数：H27年度10頭

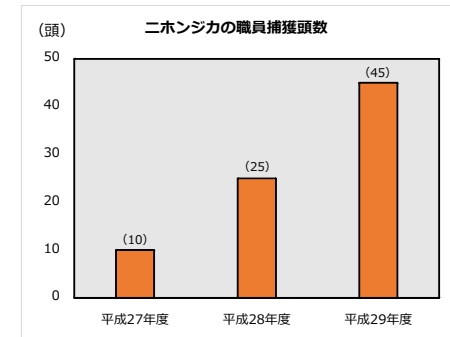
H28年度25頭

H29年度45頭

#### (3) 市町村等との連携の強化

#### (4) 捕獲技術の提供と支援

くくり罠の改良や錯誤捕獲時の放獣のための器具を作成  
県や市町村へ関連資料を提供



（図1）捕獲頭数の推移

### 4. 考察

こうした取組を行うことで、職員の獣害対策への意識の変化は変わりつつありますが、今後、対策を継続させて行くには地域と連携した実行体制の整備がより重要と考えています。

岐阜県では、ニホンジカの生息数や高山帯への拡大は確実に進んでいます。獣害対策は、早めの対応が重要な事から、岐阜署では地域や関係機関と連携して対策を積み重ねることにより地域に貢献していきたいと考えています。